



(シンボルマーク)



(校章)

宮城県迫桜高等学校同窓会

迫桜同窓会報

編集・発行 迫桜高等学校同窓会広報部会 発行日 平成26年7月3日
〒989-5502 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184 TEL0228-35-1818
迫桜高校ホームページアドレス <http://www.hakuou.myswan.ne.jp/>

ぜひアクセスを!!

▼アトラクション 本校吹奏楽部



▶総会



東京支部総会



仙台支部総会



若柳支部総会

「同窓会総会に参加を」



同窓会長 菅原 孝
(若高 昭和三十四年卒 旧姓門馬)

の事業、運営にあたりご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。私は昨年二十五年度の総会において第四代同窓会長に選出されました。同窓会では長く監事を引き受けていた矢先、佐藤昭会長さんより懇願され引き受けることになりました。佐藤会長さんには若柳地区ばかりでなく周辺の地域からも役員を出すことが、広域から生徒が集まっている迫桜高校発展には重要であると説得されました。大変任の重い役職ですが、会員の皆様の

ご支援、ご協力をいただきながら、一杯がんばりますのでよろしくお願ひ申し上げます。
佐藤前会長さんは、若高と栗農の統合以前から学校用地確保のため尽力されたと聞いております。また、迫桜高校創立後は同窓会本部役員として、同窓会組織の確立、各地域に支部の設立等に持てる力を発揮され、現在の同窓会の礎を築かれました。平成十九年度には同窓会長に就任され、それから六年間の長きにわたり会長として同窓会、迫桜高校の発展に多大に寄与されました。特に創立十周年記念事業にあたり、いかになくリーダーシップを発揮していただき、十周年記念誌、同窓会名簿の発行、記念式典等数々の事業を成功裡に推進していただきました。また、若高と栗農の会員の融合に配慮され、会員相互の親睦と交友を深めていただきました。これらのご功績に、会員の皆様とともに感謝と御礼を申し上げます。これからは同窓会

顧問としてご指導、ご鞭撻を願ひ申し上げます。
さて、皆様すでにご存じのとおり、旧若柳町内にあったすべての小学校が若柳小学校に統合されました。この地域の少子化が一段と進んでいる証拠です。このことは迫桜高校の将来に少なからずの影響があるかもしれません。学校はこれまで「地域に根ざし、愛される学校」「地域が誇りとする学校」づくりをモットーに多くの実績をあげ、地域からの信頼も得てきました。しかし、少子化に対応してさらなる魅力ある学校づくりが求められます。そのためには学校と同窓会が一体となり、在校生が充実した学校生活を送れるように支援していかなければなりません。同窓会総会に参加するのも支援の一つと考えます。アトラクションでの在校生の吹奏楽の演奏も楽しみです。懇親会も毎回盛り上がり会員相互の交流の場となっております。八月二日は同窓会総会です。多くの会員のご参加を期待しています。

「定員確保を目指して」



校長 津花 優

同窓会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解を賜り、ご支援ご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、迫桜着任から三年目を迎えておりますが、本年度入学生は定員二百名のところ百八十六名の入学というところで十四名の欠員となってしまいました。昨年は迫桜人気健在なりというお話をさせていただきましたが、来年四月に開校する登米総合産業高校（上沼、米山、米谷工業、登米高商業科が統合し、現在の沼宮高の敷地内に誕生）が、いよいよ動き始めるとともに、

同窓会活動への協賛金のお願ひ

ゆうちょ銀行口座記号番号
02260-1-113366

□座名称 (漢字)
宮城県迫桜高等学校同窓会

□座名称 (カナ)
ミヤギケンハクオウコウトウガッコウドウソウカイ

※一口1,000円です。何口でも結構です。
※ご芳名と卒業年度をご記入ください。

栗原地区の少子化傾向、さらには他地区への流出と大変厳しい状況にあります。当地区の高校はいずれも定員割れの状態にあり、今後、学級減や再編統合が危惧されているところです。本校が総合学科として、県内唯一の総合選択制の教育課程を展開していくためにも、一学年五学級は何としてでも維持していかなければならないと考えております。これまでも迫桜は進学も就職も可能な進路指導、そしてその土台となる基礎学力を保障するための学び直しの導入等、様々な取組を進めてきております。また、迫桜での高校生活が満足できるよう、学校行事や部活動の充実についても教員が一丸となって取り組んでおります。今年度は新聞等でも紹介されましたが、東北職業開発大学校と栗原市内県立学校との連携協力に関する協定の締結、さらには栗原市内県立学校連合を発足させ、多様な進路希望を持つ生徒の指導を各校が個々に行うのではなく、校種の異なる学校同士が自校の強みを生かして他校との連携を図りつつ指導することにより、栗原市内県立学校の魅力づくり、教育力アップを図って、栗原の子どもの市外流出の減少を抑えていければと新たな取り組みをスタートさせたとろです。

終わりになりますが、同窓会の皆様にはご子弟やお孫さんの迫桜高校への進学を勧めていただきますとともに、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

平成26年度 同窓会総会 期日 **8月2日(土) 11:00~** 場所 **若柳ドリーム・パル**

懇親会費 **¥3,000** ※会員券は支部長からお求め願ひます。(不足の場合は当日券で願ひます。)

●今年のアトラクションは、迫桜高校吹奏楽部の演奏を予定しております。お楽しみに!!



入学式



田植え



支部総体



モンゴル高校との交流会



迫桜祭

支部だより

若柳



若柳支部長
阿部政紀
栗農 昭和38年卒
(若柳大林在住)

十周年記念活動を振り返って

私が若柳町の教育委員会で働いていた時、若高と栗農の統合計画が急浮上しました。両校共歴史と伝統がある学校でしたが、少子化進展と共に生徒数の減少等の理由により統合が成立しました。

その時の若高の三浦将照会長、栗農の三浦三吾会長が中心になり、新たに、迫桜高等学校同窓会結成、十支部の設置に取り組まれたのです。特に両校共若柳町にある学校なので支部結成を急ぐようにとのことでした。そこで、若柳には、四十の行政区があり、すので、一行政区に二名ずつ、そして若高、栗農から各一名ずつの幹事を推薦していただき支部を設立しました。

支部の活動は主に同窓会報の配布、総会参加の呼びかけでした。地元支部として充実してきたのは、統合十周年記念事業の際でした。募金目標一千万円の半分五百万円を地元でと各地区から推薦された八十名の幹事の募金活動でした。

地元ですので、ほとんどの家には、若高か栗農の卒業生がおり、順調に目標を達成することができました。卒業生が居ない家でも地元の高校だから、また、いつかは子供や

孫がお世話になるかもしれないからと募金に協力してくれた方も数多くおり、支部長として頭が下がる思いでした。統合して十数年経過した今、十周年記念事業の取り組みが支部の必要性を表していたものと思います。

朝七時三十分になると自分の家の前を自転車で三名の女子生徒が元気に「おはようございます」とあいさつして登校して行くのを見て、地元だから、いつか子供や孫がお世話になるからと募金に協力してくれた方々を思い出します。

十周年記念事業は、迫桜の卒業生は少なく若高、栗農主体の同窓会が活動していましたが、時間のたつのは早く、二十周年や三十周年もやがてやってまいります。支部の幹事も迫桜の多くの卒業生に参加していただき、地元の高校として一層充実させ、支部、同窓会が発展することを願います。



仙台支部長
目黒文男
栗農 昭和29年卒
(仙台市泉区在住)

「迫柳会」の現状に思う

現在の仙台支部「迫柳会」は、既に活動していた「新山の骨格を母体にして、両校の世話人が、約半年の検討準備期間を経て、平成十六年三月両校「統合支部」として設立し現在に至っております。設立当初の雰囲気は、各種意見のある中、何となく活気に満ちておりましたが、最近

金成



金成支部長
阿部眞三
栗農 昭和37年卒
(金成沢辺在住)

支部の概況

今年四月やむなく支部長をお引き受けし、思わぬ重責を担うことになりましたが、本部のご支援並びに支部の役員・会員皆様のご協力を得て何とか職責を果たして参りたいと考えております。

以下、前任者からの引継内容をまじえて、支部の概況等を簡単に紹介致します。旧金成町における同窓会組織の生い立ちは、平成十四年十月「迫桜高等学校金成町同窓会」として設立され、同時に旧四村ごとに地区支部も設置されましたが、その後、市制への移行や他市町村の支部結成に合せて「迫桜高等学校

同窓会金成支部」と改称し今日に至っています。

設立に至る経過や設立総会の模様は、初代の千田剛支部長が同窓会報第二号で、さらに設立から平成二十年頃までの支部独自の活動状況は、前任の二階堂偉支部長が第九号で、それぞれ紹介しておりますので割愛しますが、設立時多くの困難を乗り越えて、大所帯の組織をまとめ上げた故菅原次男氏や故菅原宏氏をはじめとする大先輩に対し、改めて敬意を表したいと存じます。

近年は、本部発行の同窓会報を配布するのが主な活動となつていますが、平成二十一年度に行われた母校創立十周年記念事業に向けた募金活動の際には、当支部でも三十人の推進員さん方のご尽力により、多くの会員皆様から母校発展の願いを込めたご芳志を頂戴致しました。

最近の動きとしては、今年原則的に殆ど留任の形で、九月中旬の総会時に諮り、承認された姿が現在の態勢となっております。

支部活動といつても役員が中心となり、(1)会員動向のチェック、(2)迫桜同窓会報の配布、(3)役員会の開催、(4)支部総会の開催などです。この中で特に、(1)と(2)について日頃感じていることを述べてみます。

(1) 会員動向のチェックについて
支部会員をチェックする拠り所は、唯一同窓会名簿ですが、肝心の「迫桜高」卒業生の同窓生の動向が確認出来ない状況になっております。個

二月から三月にかけて地区代表者会議と支部運営会議が開かれ、活動経過の総括とともに今後の運営課題等について話し合われましたが、年齢バランスのとれた執行部編成、支部運営財源の確保、代議員制の要否、地元関係機関等との連携強化、新卒者を含む集落会員名簿の更新など様々な課題が提起されました。

これからの多くは、本部と密接に絡む課題であり、また、他支部と共通する課題でもありますので、今後、本部支部一体となつて議論を深める中で有効な解決策を見出していただければと考えております。いずれにしても本同窓会が使命を果たしていくためには、その実動組織である各支部の体制強化が最優先となりますので、これにむけて私共も努力をしますが、本部からの更なるご指導とご支援をお願いいたします。

なお、現在、同窓会活動を人情報保護法との関連がその原因とはいえず、将来の支部存立にも大きく影響する課題であると思ひます。「迫柳会」の現状をみても、近い将来具体的にこの課題に直面するのではないかと危惧しております。同窓会としても、今後真剣に検討して行くべき課題ではないかと思ひます。

(2) 迫桜同窓会報の配布について
本支部は、居住地が広範なため郵送に頼らねばならず、事務局の諸経費を含め、会員から年会費の納入協力をお願いしております。設立当初は、約二〇〇名の協力により八〇〇名程度の会員に配布出

来しましたが、年々納入者数が減少し、現在は三百数十名の配布に止まっております。役員一同は、活動維持のため協力し合い努力を重ねつつも、残念ながら衰退傾向に直面しているのが現状といえます。東京支部をはじめ他の支部から、活動活性化に向けた、よい事例などを教えて頂きたいと思うこの頃です。



- 【津久毛地区】岩淵 浩壽(副支部長) 佐々木 庵 佐々木紀恵子 近藤富士子 小野寺澄子 高橋 冷子 佐藤 勝
- 【金成地区】多田 善英(副支部長) 菅原 昭治 佐藤 敏光 藤 勲 近藤 育郎 高橋 光治 金野 康信
- 【萩野地区】石川 栄一(副支部長) 小岩 孝一 千田 笙子 佐藤多賀子 菅原のぶ子 千田 盛喜

来しましたが、年々納入者数が減少し、現在は三百数十名の配布に止まっております。役員一同は、活動維持のため協力し合い努力を重ねつつも、残念ながら衰退傾向に直面しているのが現状といえます。東京支部をはじめ他の支部から、活動活性化に向けた、よい事例などを教えて頂きたいと思うこの頃です。



灯切展



修学旅行



大学校との連携事業



職場体験学習



避難集合訓練

会員 近況報告

一つの区切りに歩き遍路旅

菅原 均

(若高 昭和四十年卒
仙台市宮城野区在住)



昭和四十年四月、当時の大蔵省(現財務省)

関東財務局に採用され、金融機関等(地方銀行、信用金庫、証券会社、保険会社など)の検査・監督、国有財産の管理処分、地域経済調査、財務広報、秘書など多くの業務を担当した。勤務地では東京大手町を皮切りに青森市、仙台市、盛岡市、札幌市、山形市など(重複あり)で勤務、転勤に伴い十二回の引越をした。

仕事を離れては、名所旧跡や温泉巡り、祭りやイベントなどの参加・見学、海釣りや水上ワカサギ釣り、山菜・きのこの採り、朝野球、日本民謡など、そこでしか味わうこと

の出来ない多くのことを体験した。また、趣味等を通じ仕事とは全く関係のない地元の方との付き合いも出来た。国家公務員として四十年、公益法人の役員を二期四年、合せて四十四年間勤めた。

一つの区切りを付けるため、退任の半年後に四国霊場八十八札所巡礼を思い立ち、歩き遍路の旅に出た。平成二十一年三月一日朝七時、一番礼所「霊山寺」を参拝、四月十二日午前十一時、八十八番礼所「大窪寺」で結願。この間、電車やバス、タクシーなど一切乗らず、約一、二〇〇キロを一日も休まず四十三日間歩き切った。三月二十五日には朝六時半から九時間も掛けて約四十キロ、五四、九二歩、歩いたこともあった。

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の放射能汚染などから自粛していた女川町出島(いずしま)湾内のアイナメ釣りや自然の宝を恵んでくれる某里山での山菜・きのこの採りなどは昨年の春から再開した。また、三十三歳前半から習い始めた民謡は二十年程中断していたが、仕



平成26年2月28日、第13回卒業生の同窓会入会式が、本校アリーナにおいて行われました。菅原孝会長より194名の入会が許可された後、菅原会長より激励の言葉がありました。続いて3力年間の高校生活において特に模範的で顕著な活動をした3年5組鈴木和志くんに対して、迫桜賞(賞状と盾)が授与されました。更に、全卒業生に対して卒業記念品として、卒業証書ホルダーが贈呈され、最後に3年3組菅野綾さんが新入会員を代表して誓いの言葉を述べました。



事を辞めてから練習を再開し、県内外で開催される大会に出場したり、ポラントピア活動で歌っている。さらに、角田市内にある約三百坪の更地を畑にし、無農薬・有機栽培で三十数種類の野菜作りをしている。加えて、COPD(慢性閉塞性肺疾患：肺年齢九十五歳以上と診断された)の劣化防止のため週五日は一万歩以上歩いている。

昨年暮れに四十年前に青森で海釣りを楽しんだ釣友達が、むつ湾で釣ったという一メートルを超えるブリを送ってきた。

一人のいちご狩り

曾根 憲 男

(栗農 昭和四十一年卒
栗原市志波姫在住)



栗農を卒業して四十八年が過ぎ、その間に生活や仕事が大きく変わりました。

農家である私の家の田んぼは区画整理がされておらず、牛を飼っていてもその牛で犁を引かせて水田を耕やし、まんがを使って代掻きをしていました。小さい頃から牛の世話を父と一緒にした思い出があります。田植えや稲刈りは全部手作業で、入学頃に三戸共同で中古耕耘機を導入したのを覚えています。

高校卒業後、開田ブームとなり圃場整備が施行され、三十アール水田になり大型ト

ラクターが入り機械利用組合が各地に結成されました。私達はそのオペレーターとして使われ、その後まもなく田植機やバインダーが入り機械化農業と変容しました。その後減反政策で転作を奨励され野菜、麦、大豆等が作付され現在も続いています。

一方、生活面に目を向けると家族構成も大きく変化し、核家族が多くなり三世同居は本当に少なくなりまし

た。旧志波姫町の私の同級生は約三百人、今の小学生、中学生の同級生は約六十人位と聞いています。私達の年代の二十位位でこれもまた大きく変化しました。栗原市の人口も七万五千人を切り毎年千人位減少している様です。

稲作兼業農家からいちご専作経営に変わって三十年近くになります。平成八年に何も分らないまま若さと勢いで日本一を目指し、農業法人有有限会社グローバルベリーファームそねを妻と立ち上げました。日本一は世界一と、今思うと幼稚で、はったりだった自分を恥ずかしく思います。一ヘクターの施設いちごの栽培をする様になり、十五人程の雇用をしました。人を育てられず人を生かせず、ずっと赤字続きで経営は火の車でした。毎日何とかしなければと思う日が続きました。

今は規模も縮小して、いちご狩りの体験を主体に農産物の直売所、野菜作りの「くりはら農学校」を行っています。感動と笑顔、元気づけりに貢献出来れば良いと考えています。

追桜生としての誇りを持つて...

阿部 雄 太

(追桜 平成二十五年卒
さいたま市在住)



私が追桜高校を卒業してから約一年半が過ぎようとしています。ふと卒業アルバムを開けば、昨日の事のように楽しかった青春時代が甦ってきます。

私は現在、「北の玄関口」上野駅にて駅員として勤務しております。毎日、多くのお客様と出会い、多くの「ありがとう」の感謝の言葉を頂きながら仕事に従事しております。

私は小さい頃からの夢である新幹線の運転士を目指し、追桜高校に入学しました。元々大学進学を視野に入れ、企業に就職する予定でした。しかし、三年次になり志望していた企業への思いが強くなり、進学から就職へと思い切った進路を変えました。進路を変えたことよって学習の仕方が進学コースとは違い、また面接練習も初めてで、最初は戸惑いばかりでした。不安に駆られながら毎日過ごしでしたが、先生方の温かいご指

導により、なんとか内定を勝ち取る事ができました。またクラスや部活で出会った仲間達の助けがあったからこそ、今の自分があることを強く感じており、感謝の一言では表すことができないくらいです。改めて御礼申し上げます。

さて、高校生活三年間は未だの自分像を創り上げていく中で一番大事な時期だと思えます。何となく三年間を過ごし、卒業後に「早かったな」と思うのではなく、毎日楽しく高校生活を送り「最高だった」と感じられる三年間を過ごしてもらえたらなあと思えます。

ささやかではありますが、追桜生にエールを送りたいと思います。まず一つ目は、とにかく楽しむことです。卒業してから後悔しては遅いのです。二つ目は仲間を大事にすることです。クラスで出会った仲間、部活動で出会った仲間、繋がりを大事にすることによって将来きつと役に立つと思えます。そして三つ目は、感謝の気持ちを忘れないことです。今の自分があるのも、先生方や仲間達、家族や地域の方々の支えがあるからです。素晴らしい環境の中で生きていることに常に感謝して下さい。思い通りにいかない、上手くいかないと思ったとき必ず手を差し伸べてくれます。陰ながら皆さんの活躍を期待しています。

最後になりましたが、これからも変わらぬご指導の程よろしくお願いたします。生徒の皆さんのご活躍、また追桜高校のさらなる発展をご祈念いたします。

